小学校
専科指導の
手引 1

札幌市教育委員会
平成28年３月

はじめに

札幌市教育委員会
教育長　長岡　豊彦

近年、グローバル化や少子高齢化など、社会の変化とともに、子どもを取り巻く環境や教育に関する課題が複雑化・多様化しています。

答えが一つとは限らない、解決の難しい課題が次々に生まれるこれからの社会を見据え、子どもに、変化の激しい社会に対応できるような「生涯にわたって学び続ける力」を育成することが大変重要となっています。

このような中、札幌市では、平成26年２月に「札幌市教育振興基本計画」を策定し、札幌市の教育が目指す人間像に「自立した札幌人」を掲げ、その実現のため、「自ら学び、共に生きる力を培う学びの推進」「多様な学びを支える環境の充実」などの基本的な方向性に基づく施策を推進しているところです。

この「札幌市教育振興基本計画」には、子ども一人一人に「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等」の「学ぶ力」を育成することを目指す「分かる・できる・楽しい授業」の推進を重要項目の一つに位置付けております。現在、各学校においては、本計画に基づき、自校の課題を踏まえた改善策である「学ぶ力」育成プログラムを作成し、実施しています。

「分かる・できる・楽しい授業」の実現に向けては、子どもや学校の実態などに応じて、指導方法や指導体制を工夫することが重要であり、各学校においては、教員一人一人の特性を生かしたり、教員が協力し合える体制を整えたりすることにより、指導の効果を高めるようにすることが大切です。

教育委員会では、個に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図る観点から、平成27年度、札幌市研究開発事業の研究課題の一つとして、「学ぶ力」の育成に向けた専科指導の在り方等について、研究推進校を指定して実践的な研究を行ってきました。

本手引には、研究推進校の実践を基に、専科指導の進め方や実践例などを掲載しております。今回、研究推進校からは、「授業が楽しい、よく分かるようになったという子どもが増えた」、「子どもへの関わり方が一層的確なものとなった」などの専科指導による効果が報告されており、今後、専科指導の積極的な活用が期待されるところです。

各学校におかれましては、本手引を参考にしながら、自校の実態に応じて専科指導の充実を図るなど、「分かる・できる・楽しい授業」づくりに向けた指導方法や指導体制の工夫に取り組んでくださるようお願いします。

平成28年３月

目　　次

はじめに … 1
目　　次 … 2

第１章　専科指導に期待される効果　～学校力を生かした専門的指導へ～ … 4
1　授業における効果
2　授業以外における効果

第２章　学校体制づくりについて　～専科指導を円滑に推進するために～ … 6
1　学校体制の見直しについて
2　推進に当たって
3　配慮事項

第３章　授業を始めるにあたって　～年度初めの打合せ例～ … 11
1　専科担当と学級担任との打合せ
2　授業を行うに当たって
3　学習評価について

第４章　実践例

1　あいの里西小学校　「知りたい、伝えたい、意欲を引き出す ～子どもの思いを大切にした授業づくり～」 … 14
2　八軒西小学校　「外国語活動にひたる・つかう・楽しむ ～コミュニケーションの手段を広げる外国語活動～」 … 16
3　中央小学校　「教育課程における理科専科指導の位置付け」 … 18
4　円山小学校　「校内へ広げる理科専科　～学級担任との連携～」 … 20
5　幌西小学校　「再任用教員の専門性を生かした専科指導 ～学級担任との連携を密にした情報共有～」 … 22
6　新陵小学校　「生徒指導に生きる専科指導 ～高学年における効果的な取組～」 … 24
7　上野幌東小学校　「子どもの実態に応じた専科指導 ～体育授業の充実を目指した取組～」 … 26
8　新光小学校　「各学年に合わせた専科指導 ～複数パターンを組み入れた取組～」 … 28
9　藻岩小学校　「学校が変わる！専科指導 ～担任外が年間を通じて教科指導を実施～」 … 30

第１章

専科指導に期待される効果

～学校力を生かした専門的指導へ～

第２章

学校体制づくりについて

～専科指導を円滑に推進するために～

第３章

授業を始めるに当たって

～年度初めの打合せ例～

第１章
専科指導に期待される効果
～学校力を生かした専門的指導へ～

１　授業における効果

学習意欲等の向上

専科指導への期待

指導と評価の一体化

①　子どもにとっての効果

学級担任制をとる小学校では、一人の教員が学習状況はもちろん、生活環境、健康状態など、子どもの実態をきめ細かく把握し、信頼関係を築きながら指導を行っています。学級担任の存在は、小学生の子どもに安心感を与え、学習意欲を引き出す基盤になっていると言えます。

こうした学級担任制のメリットを大切にしつつ、より一層、子どもの学習意欲を高めたり、思考力・判断力・表現力等を高めたりする授業を充実していくためには、学年や教科によって、**専科指導を取り入れ、各教員がもつ専門性や得意とする教科等の指導力を生かしながら、「分かる・できる・楽しい授業づくり」を進めることも大変重要**です。

○英語を得意とする教員や音楽や体育の指導に専門性をもつ教員が、専門的な知見や自身の経験等を生かして授業を行うことは、子どもの知的好奇心を喚起することにつながる。
○専科指導は、深い教材研究に基づく教材の準備、指導計画や評価計画の作成などにより、よりよい授業の実現につながる。

②　教師にとっての効果

「専科を担当する教員」（以下、「専科担当」）が専門性を生かした、より効果的な指導と評価を行うことは、**校内の教員が互いの専門性に基づく授業を見合い、自らの指導方法等の工夫改善に生かしていくことにつながります**。

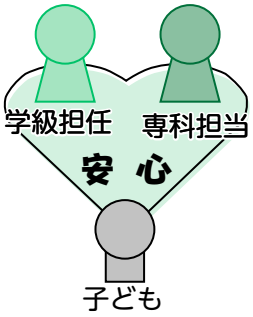
専科担当が、**教科等の特性や学習指導要領の趣旨等を十分に踏まえながら、指導と評価の一体化を図る実践を行う**ことは、指導と評価の妥当性と信頼性を高めることにつながります。

このように、学校として専科指導を活用しながら、指導方法や評価の在り方について学校全体で研鑽を深めることも、専科指導の効果の一つであると考えられます。

2　授業以外における効果

小中学校段階の円滑な接続

子ども理解の深まり



教材の蓄積や業務の効率化

①　子どもにとっての効果

専科指導の実施は、中学校での教科担任制に対する、子どもの心理的なギャップを軽減する効果も期待できます。

小学校と中学校の授業スタイルの違いから、学校生活に慣れるのに時間がかかるなどの課題がある中、特に高学年において、中学校での学習スタイルに慣れておくことは、中学校進学に対する安心感を高め、進学後の授業への抵抗感を軽減するメリットがあり、**小学校から中学校への円滑な接続**に資するものと期待できます。

②　教師にとっての効果

平成27年度の研究開発事業において、専科指導について実践研究を行った研究推進校からは、**「子ども理解」に効果**があるとの報告が多くありました。

専科担当が教室に入ることで、学級担任と専科担当が学級の課題を共有し、学級経営の進め方を一緒に考えるなど、一人の子どもを複数の教員の目で見ることにより、子ども理解を深め、指導方法等を複眼的に検討することにつながるというよさがあります。

学級担任以外の先生が、専科担当として学級に関わることで、子どもにとっては、身近な教師が一人増えることになります。研究推進校では、専科指導を進める中で、**子どもが専科担当に悩みを相談しに来る**ことがあり、生徒指導に役立ったという報告もあります。学級担任が気付かなかった子どもの新たな一面に気付くことなど、子ども理解の深まりが期待できると言えます。

各教員の子ども理解に関する力量を高め、**多面的に子どもの状況を把握することは、子どもの可能性を引出し伸ばす上で、また、生徒指導上の課題に対処する上でも大切**なことです。

専科担当は、複数の学級で指導するため、汎用性のある教材を準備することにつながります。

研究推進校の中には、外国語活動を専科指導で行うに当たって、子どもの実態に応じて、ワークシートや掲示物等の教材・教具を作成するとともに、それらをいつでも使える共有データとして保管し、次年度以降も他の教員が教材として活用できるよう整備した事例がありました。

このような取組によって、**教材・教具が充実する**ことはもちろん、**業務が効率化**され、限られた**時間をより効果的に使う学校体制**につながることも期待できます。

第２章
学校体制づくりについて
～専科指導を円滑に推進するために～

1　学校体制の見直しについて

校務分掌等の見直し、改善

専科指導と校務の関わり

専科担当が教科の授業を行うに当たって、専科担当が、教務主任や保健主事、TT・少人数指導などを担当している場合には、専科指導の業務と、他の校務とのバランスを考慮することが必要です。

専科指導を円滑に推進するためには、**校務全体を見渡し、校務の重点化やスリム化を図るとともに、校内組織の構成や分担等を改善**することも大切なことです。

【校務等の見直しのポイント】

□ 校務分掌等の見直し…校務を整理・統合し校内組織を再編

＊校務分担のバランスを考慮すること、学校の重点教育目標などとの関連で重点化やスリム化を図ること。

□ 行事等の精選…各行事の内容や事前・事後指導の見直し

＊見直しに当たっては、学習活動のねらいを効果的・効率的に達成すること、保護者や児童からの理解を得て進めることが重要。

□ 校務の効率化…データ共有と活用の推進、会議・連絡方法の改善

＊毎年使用できる情報、参考にできる情報などのデータは「保存⇒共有⇒活用」を徹底、また、協議すべき事項と、校務支援システムでの連絡で済む事項とを仕分けるなどして、校務の効率化を推進する。

2　推進に当たって

年間の見通し・計画を共有

①専科担当と学級担任の役割等

専科担当が年間を通じて、同一の教科等を指導するためには、**時間割の調整方法や担任との連携方法、評価の在り方などについて、年間の見通しを早い時期に共有**しておくことが必要です。

また、**専科担当が授業を行っている間の時間を、学級担任がどのように有効活用していくのか**についても、校内で共有しておくことが大切になります。

専科指導が行われる学級によっては、４月当初は、専科担当と学級担任がTTで授業するなど、子どもたちがその後の専科担当による授業に抵抗なく取り組めるように導入を工夫することも考えられます。

【専科担当と学級担当の役割分担のポイント】

□ 専科担当の役割例

○担当教科の年間指導計画や評価計画、教材の準備などを担うことで、計画的で効果的な指導の実現に努める。

○複数の学級の時間割を調整するなどし、計画立案に生かす。

＊なお、指導と評価の一体化の観点から、「指導を専科担当が行って、評価を学級担任が行う」などの分担はしない。

□ 学級担任の役割例

○学級担任は、専科指導の間、担当している校務や学級事務、教材準備や学習評価に係る業務などを行うことが考えられる。

○また、学校の実情や必要性に応じて、他の学級で指導を行ったり、T2として自分の担任する学級で専科教員とTTで、指導を行ったりすることも考えられる。

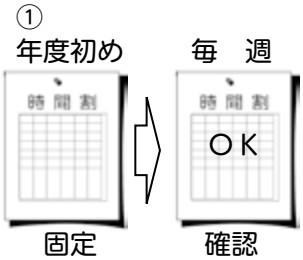
＊T2として教室に入ることで、専科担当から指導方法等を学ぶ事例もある。

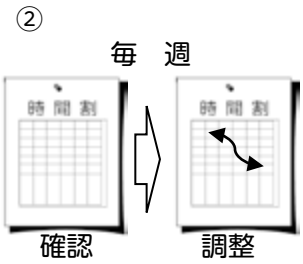
時間割の調整

②週時間割の作成・調整について

年間を通じて計画的に行う専科指導においては、時間割の作成と調整が重要になります。時間割の作成・調整を担当している教員（以下、時間割調整担当）が特別教室の使用時間割を作成したり、TT等の基本時間割を作成したりするように、学校において専科指導の基本時間割を作成する必要があります。

時間割の作成と調整は、学校規模等により様々な方法が考えられますが、例えば、以下の方法例①及び②を組み合わせて実施することが考えられます。





■方法例①：「固定時間割」の活用

・年度初めに基準となる固定時間割を作成し、行事前など、必要に応じて変更を加える。

⇒特別教室等の割当てと同様に、時間枠を固定する方法

■方法例②：「週案」の活用

・時間割調整担当を決め、週ごと（又は隔週で）、担当者が専科指導の授業時間割を提示し、学年打合せの場で調整する。

⇒学年打合せを活用して、柔軟に取り組む方法

※例えば、専科担当が外国語活動（週１時間）の授業を担当する場合、３時間目（１組）、４時間目（２組）など２時間続きで、ALTとの連携による授業を行うなど、効率的な授業を行うことも工夫の一つです。

※学校行事や校外学習等の影響で、専科指導が行えない場合に、振替が確実に行われるよう確認することも大切です。

【各研究推進校の実践例から】

・子どもたちの発達の段階や実態を踏まえて、１時間目は学級担任が授業を行い、２時間目以降に専科指導を行った。
・専科教員が外勤等で不在の場合は、専科担当が調整を行い、時間割調整担当へ報告することで漏れを防ぐことができる。

など

３　配慮事項

指導を経験する機会の減少

研修の場として有効活用

①教員の指導経験への配慮

学級担任は、専科指導を行うことにより、当該教科を指導する機会が減るという側面があります。

小学校の教員には、全ての教科等について高い指導技術や専門性を身に付けることが求められますので、専科指導を進める中では、例えば、専科指導の授業を参観し合う機会を設けたり、校内研修の一環として位置付けたりするなど、研修の場として有効に活用することも考えられます。

※専科指導が行われている時間の学級担任の時間の使い方は様々な工夫がありますので、学校としての活用方針を定めておくことも大切です。

専科担当

打合せ（指導計画、評価計画、行事、作品等の掲示物）

専門性を生かした指導と評価

・年間指導計画の作成
・評価計画の作成
・汎用性のある教材・教具の作成
・指導記録の作成、時数管理

例１）５年１組

子ども

学校

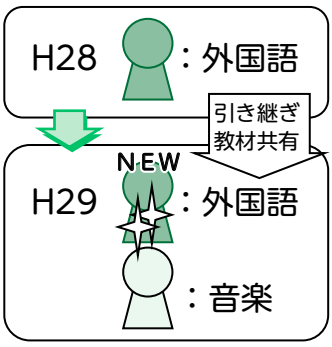
・校務分掌の見直し
・行事の精選、校務の効率化
・指導資料等の蓄積により、次年度以降の学校の財産へ

時間割調整担当

学習環境の整備

※専科についての打合せの進め方は、P11の図を参照。

次年度への準備と引継ぎ



専科指導の理解と啓発

②継続性の確保

教員の得意分野を生かして専科指導を行うことは、教育効果を高める上で有効ですが、当該の教員の異動により、年度によって対象教科を変更せざるを得ない場合も想定されます。

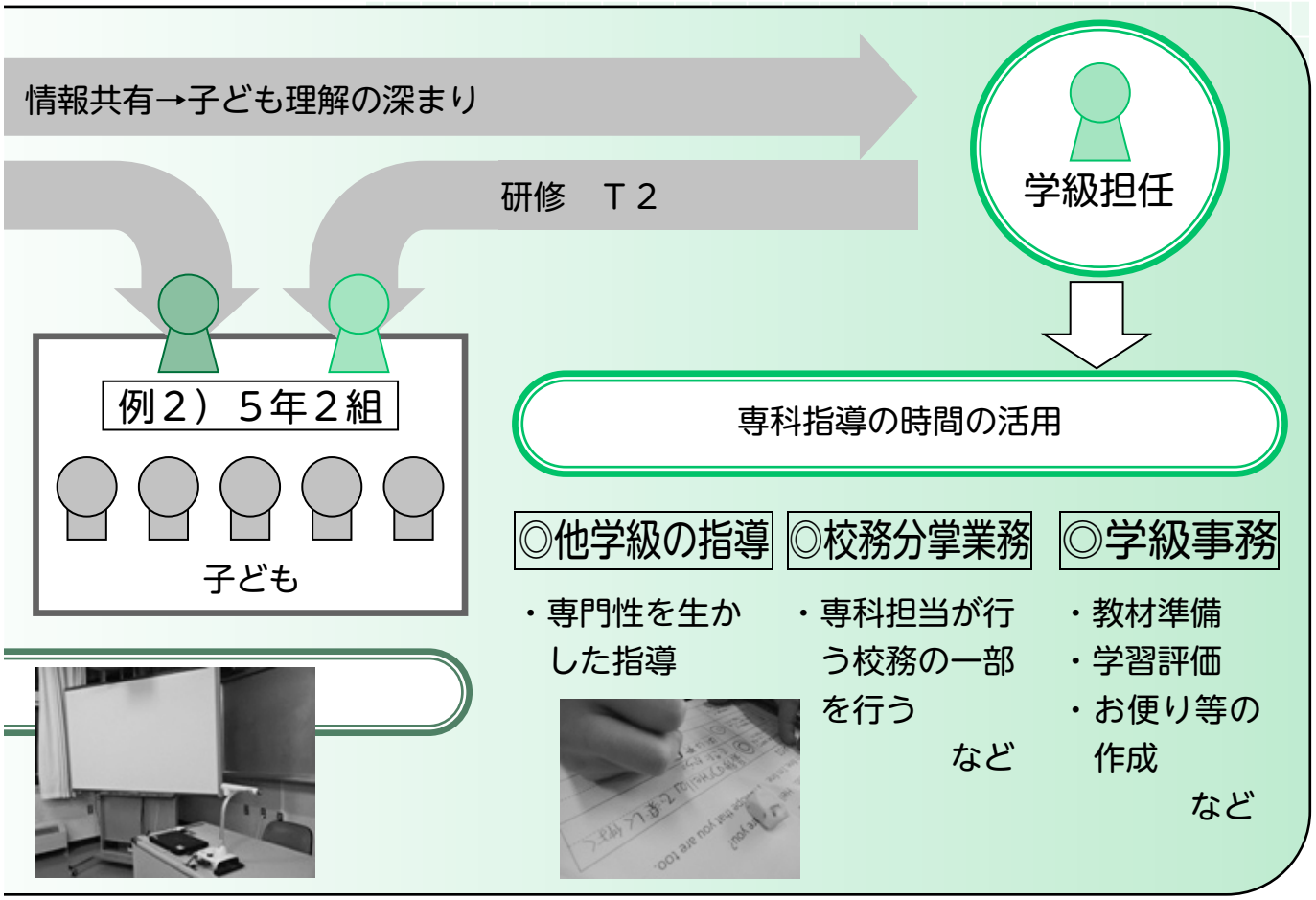
専科指導による成果を引継ぎ、次年度の指導に生かすためには、専科指導を通じて作成した指導案や学習シート、評価資料などを、学校の教育資源として記録化し、すぐに活用できるようにしておくことも大切です。

○次年度の専科指導に活用できるような教育資源の蓄積と引継ぎを、計画的に取り組むことが継続性の確保のために必要。

③保護者等への説明

学級担任制を基本とする小学校においては、「なぜ、専科で指導するのか」、「専科指導とは何か」など、専科指導の趣旨や方法等を保護者はもちろん、子どもにも分かりやすく説明することが大切です。

参観日等での公開や学校説明会での紹介など、情報発信を工夫することが求められます。



第３章
授業を始めるに当たって
～年度初めの打合せ例～

１　専科担当と学級担任との打合せ

担任との連携

年度初めに決めること

評価方法、時期を学級担任と共有する。（授業者が評価）

年間の活動計画を立てる。（時間割作成、行事等の調整）

打合せ、連絡の仕方を決める。（毎週、適時）

打合せについて

授業を行う段階で大切なのが、専科担当と学級担任との打合せです。打合せは、定期的に行う必要があり、以下の３点に留意しながら、年度初めに、年間の取組の見通しなどについて打ち合わせ、確認しておくことが大切です。

＜　評価について　＞

・指導と評価の一体化の観点から、授業を行った教員が評価も行うこと。
・また通知表の作成時期を考慮して、日々の評価の総括や所見の作成などを計画的に進めること。
・学習内容によっては、専科担当から学級担任へ評価情報を伝え、指導方法等の工夫改善を図ること。
（専科の授業以外の時間において学級担任の協力を要するような、継続して行うことが必要な学習など）
・評価規準の作成や評価方法等について、学級担任と連携をとって進めること。
（懇談等で保護者への説明を行うなど、学級担任が子どもの学習状況を把握しておく必要があるため）

＜　指導計画について　＞

・学級経営と関連して実施すべき内容について、年間の見通しを立てること。（参観日での専科指導の授業公開、学校行事との連携など）
・学習内容を掲示物として活用する場合や、学級の発表会等に生かしたい場合などについて、事前に検討し計画しておくこと。

＜　定期的な打合せの実施について　＞

・学年打合せなど、定期的な打合せの場で、専科担当も交えて、次週の計画や子どもの学習状況等について共有すること。
・打合せ時間が確保できない週などには、メモや校務支援システムの掲示板機能などを活用して迅速に情報を共有すること。
※特に、子どもの安全や生徒指導に関わる対応等については、迅速に共有する必要がある。

2　授業を行うに当たって

学習環境について

座席表や、名札を用意する。

学級担任による専科担当への配慮

専科担当は、複数の学級で指導を行うことが多いため、一つの学級に入る授業時数が少なく、子どもと関わる機会も限られます。

専科担当が、子どもとの信頼関係を早期に築き、授業効果を高めるためには、教室に座席表を用意しておくことや、学習時に名札（簡易なものも含む）を使用するなどの配慮が必要です。

専科担当が、少ない授業時数を有効に活用できるよう、環境面での配慮を行うことも大切です。

指導方法を共有する。（ノートの取り方など）

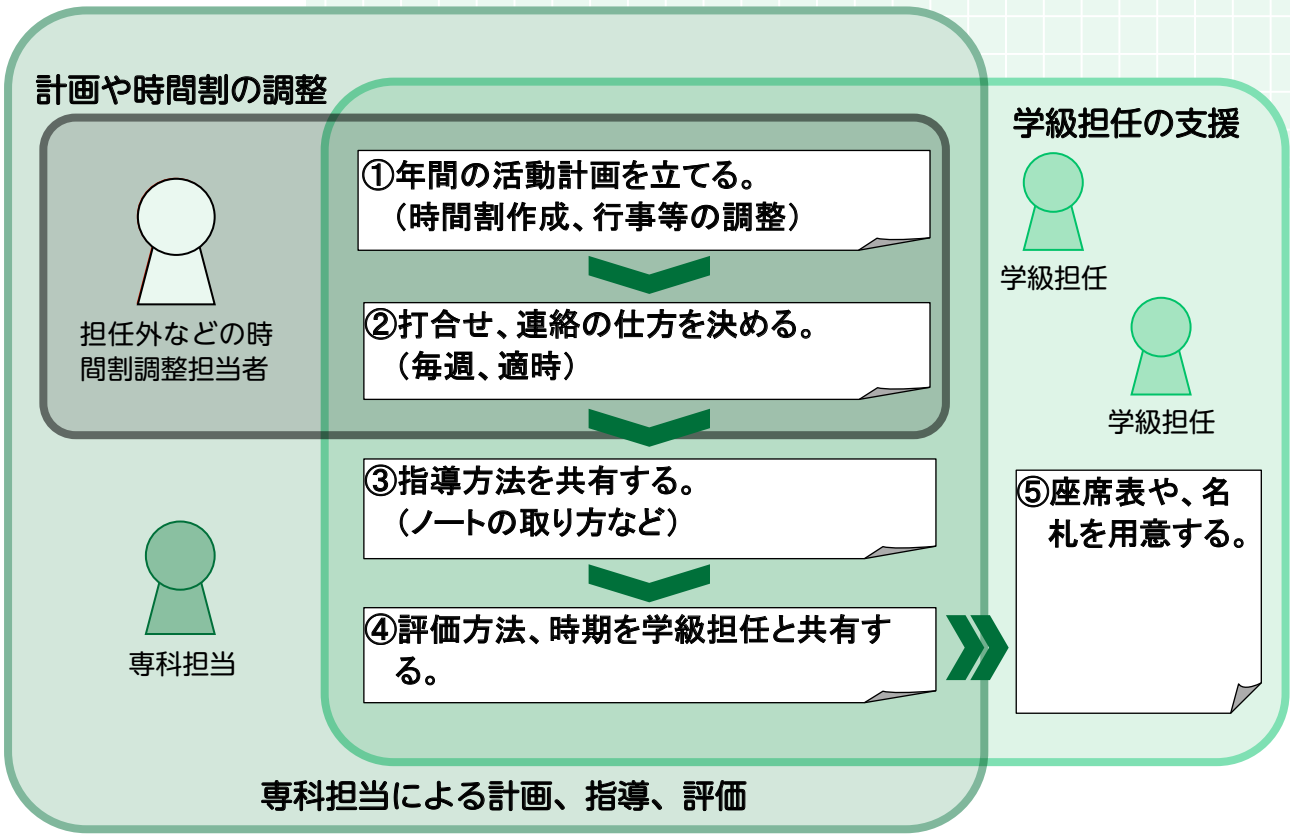
学習スタイルについて

授業の際のルールなどを「○○小　学習スタンダード」等の名前で作成している学校もありますが、このように、学年・学級間で学習方法等を共通化する取組を進めることは、専科指導の実施に当たっても、有効に働きます。

専科担当により複数の教員が指導を行う場合、ノートの記述の仕方や発言の方法などの学習方法等が教員ごとに変わって、子どもが混乱するということも想定されます。

共通で指導する項目と、その教員が工夫して進める項目を整理しておくと、授業が円滑に進みます。

【打合せの進め方】



時間の管理意識を高める

時間の切り替えについて

例えば、理科室で専科指導を行うなど、特別教室で授業を行う場合、授業開始時刻に配慮することなど、時間の管理が重要になります。

専科指導前の授業終了時間を守ることはもちろん、チャイムのあるなしに関わらず、子どもが専科指導に対して、円滑に移行できるよう、持ち物の準備や心構えなどを整えておくことに、学級担任が配慮するようにします。

教科等によっては、ALTや観察実験アシスタントなど、専科担当以外にも授業に関わる場合があります。外部人材との連携を行う場合は、特に時間の管理意識を高める必要があります。他にも、特別教室の使い方や、実験器具の使い方など、学級間で取組方針を共通化するなどしておくことも大切です。

３　学習評価について

学習評価

専科教員と担任の情報共有

評価の過度な負担を考慮

評価の共有

年間計画に基づいて計画的に行う専科指導において、評価方法、評価規準を学級担任と共通理解しておくことは、とても重要なことです。通常行っている専科指導において、学期の途中で異なる教員が指導しなければならない場合は、評価について共有理解しておくことが必要です。打合せにおいて常に評価規準を共有し、子どもを見取る視点を共通化しておくことが、評価の妥当性につながり、保護者に対して適切な説明を行うことができます。

評価時期を考慮した計画性のある通知表の作成

高学年の指導要録において、総合的な学習の時間や外国語活動についての評価は文章による記述となっており、総合所見と合わせると学級担任の作成する文章量は、決して少なくありません。

例えば、通知表の所見作成時期において、評価に時間が掛かり過ぎたり、他の校務との過度な重なりが生じたりしないように、年度当初から計画的に評価の情報を収集・整理するなど、バランスのとれた校務処理が望まれます。

また、専科担当の校務分掌や、担当教科数を減らすなどの考慮をすることで、学校の実情に応じた専科指導が実現できます。

第4章

実　　践　　例

知りたい、伝えたい、意欲を引き出す
～子どもの思いを大切にした授業づくり～
あいの里西小学校

知的なコミュニケーション活動に

※本校では、小学校における専科指導の加配校となり、本校に籍を置いた教員が、屯田南小学校と兼務して、外国語活動の専科指導を行っています。

本校では、外国語活動の専科指導について、加配を受けて行っています。外国語活動では、言語や文化に触れながら英語に慣れ親しむことを経て、相手意識をもって自分の思いを他者に伝えていく「コミュニケーション活動」が大切です。ここでは、専科担当の専門性を生かしたALTとのきめ細かな打合せや、教材準備、学習の見取り等を生かした「言語や文化を理解するためのALTとの実践」、「楽しみながら英語表現に慣れ親しむ活動」、「知的なコミュニケーション活動」の例について、紹介します。

ALTが外国の文化を教室に運ぶ

“Yes./ No.”で自分たちの宿泊学習を伝えよう！

ALTと専科担当とのTTの実践です。

①ALTが小学生の時の宿泊学習を写真と英語で紹介します。

②専科担当は“buffet”や“shark”など、あらかじめ打合せをしておいたキーワードの絵カードを提示して、絵の横に○を付けます。

③専科担当は、「あいの里西小の宿泊学習をALTに教えてあげよう」と子どもたちに投げかけ、“Yes.”か“No.”で子どもたちに答えさせ、その結果を○や×で黒板に書きます。

ALTには、授業の始めに学校行事に関する話と、できるだけその様子が分かる写真の用意をお願いしておきます。オーストラリア出身のALTは、小学生の時、宿泊学習でサメを見たそうです。当然、“Shark?（はみんなの宿泊学習にいましたか？）”の質問には 、子どもたちは“No!”の大合唱となりました。

世界時計とライブカメラから

今、何時？

“Hi, friends! 2”のLesson 6の実践です。右下のような世界時計を人数分用意して子どもたちに配ります。

①世界地図で日本との位置関係を明らかにした上で外国の現地時間を考えさせます。

②インターネットのライブカメラでその都市の様子を見て、現地時間を確認します。

前のLesson 5の「友達を旅行にさそおう」の単元で子どもたちの関心の高かった国の時刻を調べていくことで、より一層興味をもって活動に取り組む姿が見られました。

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
5・6年（各４学級）	外国語活動	通年（４月～３月）	専科担当（加配）

一人一人の学習意欲を引き出す単元構成

略語辞典を作ろう

“Hi, friends! 1”のLesson6の実践です。これは東京学芸大学粕谷恭子教授の実践を参考にしました。

①“Hi, friends! 1”のデジタル教材にあるChantsから略語について説明し、「略語辞典を作ろう」という単元のゴールを設定します。（デジタル教材では“Compact”と“Disk”で“CD”という略語ができるという内容になっています。）

②Chantsの英語表現に準じて、ペアでアルファベットカードのやり取りをさせて略語を略語辞典カードに貼ります。

③グループで代表の略語を決め、Chantsの英語表現にそってクラス全体に紹介します。

子どもたちはその略語が本来どのような意味の言葉を略したものか、とても興味をもっていました。一人一人が持つ略語カードの本来の意味が理解できるよう、教師が支援をしました。専科担当のもつ専門性を発揮することで、子どもの理解が深まりました。

○○トラベル　旅行提案をしよう

“Hi, friends! 2”のLesson 5の実践です。まず実際の旅行会社のパンフレットを見せ、今回のテーマは世界の国々であることを知らせます。次に誌面の外国について知っていることを子どもたちに考えさせ、一人一人の興味が違うことやその理由を尋ねながら「旅行提案をしよう」という単元のゴールを設定しました。

①○○トラベルなどの会社名を決めます。

②観る、食べるなどの旅行提案を２つ以上設定します。

③パンフレットを作ること、そこには文字情報を入れないことを伝えます。

④関連するChantsを聞きながら作業をします。

⑤全員が店員役、お客役の両方を体験します。

写真を指差しながら旅行提案をする店員、そしてその提案を真剣に検討しながらお客の役を楽しむ子どもたちの姿が見られました。

成果（☆）と課題（★）

☆専科担当が中心となって、ALTとの綿密な事前打合せや、独自の教材化を工夫することで、子どもたちが伝えたい、知りたいと、意欲的に活動に取り組み、他者理解や異文化理解を深めることができた。

★パンフレット製作等の作業がある場合、特に在籍校ではない兼務校における欠席児童への対応が難しく、学級担任との連携が必要であった。

外国語活動にひたる・つかう・楽しむ
～コミュニケーションの手段を広げる外国語活動～
八軒西小学校

八軒西小学校の外国語活動

※本校では、小学校における専科指導の加配校となり、本校に籍を置いた教員が、日新小学校と兼務して、外国語活動の専科指導を行っています。

分かる・できる単元構成を

本校では、外国語活動の年間計画作成、指導、評価、ALTへの対応を全て専科担当が行います。２週に１回、学年打合せを行い、時間割を調整します。打合せを通じて、子どもの様子を情報共有することで、学級担任とともに子ども理解を深めることができます。

校内の教職員にも専科指導の取組について知ってもらうため、通信を発行しています。

スモールステップで「分かる・できる・楽しい」

下の表は「Hi, friends! 1/ Lesson4/ I like apples.」の単元構成です。スモールステップで学習が進むように考えています。

時	学習のねらい	主な活動形態	Activity
1	新しい英単語を知る 【apples , oranges】	聞いて リピートする	キーワードゲーム フィンガーゲーム 王様かるた
2	英単語に慣れる 【Do you like apples?】	絵を見て発音する	伝言ゲーム 王様かるた 仲間さがしゲーム
3	英語表現に慣れる 【Do you like apples? Yes, I do.】	コミュニケーションに 使う英語表現を 練習する	仲間さがしゲーム 爆弾ゲーム ミッションゲーム
4	英語表現を使う 【Do you like apples? No, I don't.】	英語表現を使って 自分に合った内容を 尋ねたり答えたりする	ヒントクイズ インタビュー

①新しい英単語を知る

まずは、絵を見ながら耳で聞き取ります。英単語が耳になじんできたところで、声に出す活動に進みます。

②英単語に慣れる

初めのうちは、聞いてリピートすることを繰り返します。慣れてくると絵を提示しただけで英単語を言えるようになります。ただし、単純な反復練習では活動が単調になり、子どもたちの意欲も上がらないので、上の表のように様々なActivityを工夫して、楽しみながら繰り返し発音できるようにします。

③英語表現に慣れる

次に、会話に使う英語表現を教えます。ここでも、初めは練習が必要です。「Do you like apples?」「Yes, I do.」まずは、このような英語表現を繰り返し練習し、慣れるようにします。

④英語表現を使う

最後は、友達とお互いの好きなものや苦手なものについてインタ

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
5・6年（各２学級）	外国語活動	通年（４月～３月）	専科教員（加配）

ビューをするなどして交流します。普段、日本語ではわざわざ聞かないようなことでも、英語だからこそ聞き合うことができます。友達との相違点を新たに発見して驚いたり、クラス全体の傾向を知って一体感を味わったりすることができます。

Activity設定の工夫

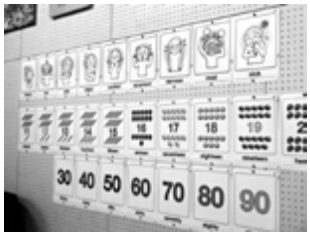
子どもの発達の段階に応じたActivityの工夫を

英語を聞いたり話したりする力が十分ではないとは言え、学習者は11～12歳の子どもたちです。初めのうちは、英語を使ったActivityそのものを楽しく感じますが、次第に物足りなさを感じるようになります。そこで次のように取組を工夫します。

・同じActivityでもルールを工夫して難易度を上げる
・ミッションが明らかで達成感のあるActivityを設定する
・友達との協力が必要になるActivityを設定する

このようなActivity設定の工夫により、達成感、所属感、仲間意識が高まります。グループで自然にお互いが助け合っている状況をつくることも、高学年には必要な配慮だと考えます。

英語の音が耳になじむ環境



英語を耳にする場面を増やす学習環境

ALTは授業を全て英語で進めます。初めのうちは「ALTの先生が何を言っているのか分からない。」と感じる子どももいるのですが、そのような子どもにとって少しでも英語が耳になじむように、専科の授業においても説明や指示、質問などに簡単な英語を使うようにしています。また、学習の始めに、日付や天気、その時の調子について聞くことを習慣化し、英語でのやりとりが当たり前になるようにします。その他にも、子どもたちが英語ルームに入ってくるときには、英語の歌をかけて迎えたり、Activityの時にChantsを繰り返し流したりして英語が耳になじむようにしています。授業の最後に教室を出るときには、その時間に学習した英語表現を「テスト」と称して英語で質問し、子どもたちが答えるという場も設定しています。このように、少しでも英語を耳になじませ、英語を聞き取って理解しようという態度を育てたいと考えています。

成果（☆）と課題（★）

☆６年児童のアンケートに、「何度も繰り返しやってもらえるので分かりやすい」「英語は苦手だったが楽しく学習ができるようになった」「友達のことを知ることができて楽しい」という回答があった。スモールステップで学習を積み上げてきた成果である。

★Activityを進めながら個々を見取るということには、さらなる工夫が必要である。例えば、評価対象とする子どもを決めて、少しずつ見取るというような手だての工夫が考えられる。

教育課程における理科専科指導の位置付け

中央小学校

「理科が好き」学ぶ基盤になる子どもの思い

※本校では、小学校における専科指導の加配校となり、本校の教員が、理科の専科指導を行っています。

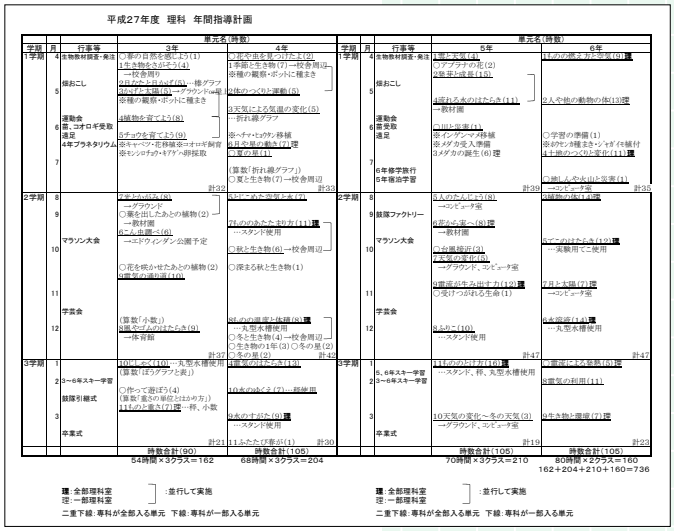
12月に児童に実施した意識調査では、「理科の先生との学習は楽しいですか。」という項目には、96.8％の児童が「楽しい」と答え、「理科の先生と学習したことについて、もっと知りたい、もっと調べたいと思いますか。」という項目には、93.6％の児童が「思う」と答えています。理科の専科指導を始めて３年目になりますが、肯定的に回答する児童の割合は、年々上昇しています。

ここでは、教育課程上で専科指導が軌道にのるまでの流れや、年度当初や年度中に配慮すべきことなどについて紹介します。

常に計画、準備しておくべきこと

年間指導計画の作成について

詳しい計画を立てる際に指針となるため、下記のような事柄を念頭において年間指導計画を作成しています。学年の先生方も年間計画を見て、学年のカリキュラムを考えるので、年度当初に学級担任に提案できるようにしておくことが重要です。



平成27年度　理科　年間指導計画

学期	月	行事等	3年	4年
1学期	4	生物教材調査・発注	○春の自然を感じとり(1) 1生き物をさがそう(4) ―校舎周り	2友や虫を見つけたよ(8) 1事前と生き物(7)―校舎周辺 ※種の観察・ポットに種まき
	5	様おこし	2花たちはなんだ(6)…棒グラフ 3バイク大隊(6)―グラウンド or 畑 ※種の観察・ポットに種まき 4植物を育てよう(8)	4体のつくりと運動(5) 9天気による気温の変化(5) ―折れ線グラフ
	6	運動会 器、コオロギ受取 遠足	5チョウを育てよう(9) ※キャベツ・花移植※コオロギ飼育 ※モンシロチョウ・ｷｱｹﾞﾊ観察	※ヘチマ・ヒョウタン移植 6月の星の動き(7)理 ○夏の星(1)
	7	4年プラネタリウム		(算数「折れ線グラフ」) ○夏と生き物(7)―校舎周辺
			計32	計33
2学期	8		2キトンがふ(8) ―グラウンド ○薬を出したあとの植物(2) ―教材園	5ものの温度と水(7)
	9			
	10	マラソン大会	6ゴム鉄道ーS(6) ―エドウィンダン公園予定	7もののあたたまり方(11)理 ―スタンド使用
	11		○花を咲かせたあとの植物(2) 9電気の通り道(10)	○秋と生き物(6)―校舎周辺 ○深まる秋と生き物(1)
	12	学芸会	(算数「小数」) 8風やゴムがはたらき(9) ―体育館	8ものの温度と体積(8)理 ―丸型水槽使用 ○冬と生き物(4)―校舎周辺 ○生き物の1年(3)○冬の星(2)
			計37	計42
3学期	1		10ひしゃく(10)―丸型水槽使用 (算数「ぼうグラフと表」)	11電気のはたらき(13)
	2	3～6年スキー学習	○作って遊ぼう(4) (算数「重さの単位（はかり方）」) 11ものと重さ(7)理―秤、小数	10水のゆくえ(2)…蒸発皿
	3	鼓隊引継式 卒業式		9水のすがた(9)理 ―スタンド使用
			計21	11ふたたび春が(1)　計30
			時数合計(90) 54時間×3クラス＝162	時数合計(105) 68時間×3クラス＝204

学期	月	行事等	5年	6年
1学期	4	生物教材調査・発注	1雪と天気(4)	1ものの燃え方と空気(9)理
	5	様おこし	○アブラナの花(2) 2発芽と成長(1) 4流れる水のはたらき(11) ―教材園	2人や他の動物の体(13)理
	6	運動会 器受取 遠足	○田と雨量(1) ※インゲンマメ移植 ※メダカ受入準備 3メダカの誕生(6)理	○学習の準備(1) ※ﾀﾈの植えき・ｼﾞｬｶﾞｲﾓ植付 4土地のつくりと変化(11)理
	7	6年修学旅行 5年宿泊学習		○地しんや火山と災害(1) ―コンピュータ室
			計39	計38
2学期	8		5人のからだ(8) ―コンピュータ室	2植物の根(11)理
	9	鼓隊ファクトリー	6雨から雪へ(8)理 ―教材園	
	10	マラソン大会	○台風接近(2) 7天気の変化(8) ―グラウンド、コンピュータ室	3ﾌﾞﾂのはたらき(12)理 ―実験用ﾌﾞﾂ使用
	11		8電流が生み出す力(12)理 ○受け継がれる生命(1)	7月と太陽(7)理 ―コンピュータ室
	12	学芸会	9ふね(10) …スタンド使用	4水溶液(14)理 ―丸型水槽使用
			計47	計47
3学期	1		11ものの上げ方(10)理 ―スタンド、秤、丸型水槽使用	1電流による磁界(5)理
	2	5、6年スキー学習 3～6年スキー学習		8電気の利用(11)
	3		10天気の変化～冬の天気(3) ―グラウンド、コンピュータ室	9生き物と環境(7)理
		卒業式		
			計19	計23
			時数合計(105) 70時間×3クラス＝210	時数合計(105) 80時間×2クラス＝160 162＋204＋210＋160＝736

理：全部理科室　理 ―部理科室　：並行して実施
二重下線：専科が全部入る単元　下線：専科が一部入る単元

①学年ごとに単元の順番を考える

雪解け時期や日中の気温上昇、生物の活動開始時期など、北海道特有の情況がありますので、外で行う活動と室内で行う活動を想定し、単元の順番を考えます。

例えば、

- 教材園の畑起こし・種蒔や発芽・開花や結実等の時期（生物単元）
- 昆虫やその他生物の活動時期と場所(生物単元)
- 他教科との関わり（特に算数、グラフや小数等）　等

②他学年との単元配列を考える

複数の学年において、同じ実験道具を使わなければならない時期があります。使用方法が同じであったり、すぐに復元できたりするのであれば問題ないのですが、スタンドの高さを固定して使用する単元や、使用する場所が異なる（理科室、教室、特別教室、体育館等）単元などでは、道具の調整に時間がかかります。なるべく使用時期が重ならないように実験道具を計画書にまとめて整理します。

また、観察期間が長くなるものなど、学級担任が行った方がよい単元もあるので、活動場所が重ならないように計画すると、効率的

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
3～6年（11学級） 特別支援学級	理科（全単元、各単元の形態は担任と相談した上で決定）	通年（4月～3月）	専科担当 （加配と学級担任）

に単元を進めることができます。

③どの単元を指導するか考える

学級数が多い場合、全学年の全単元を専科担当が指導することはできません。単元の導入部だけを専科担当が指導したり、年間を通して行う単元（気温や天気に関わる単元）は学級担任が指導したりするなどの工夫が大切です。

④学校行事や学年の動きについて考える

運動会や学習発表会の時期になると、行事の取組が多くなります。また、時間割を柔軟に計画しなければならない時も出てきます。特に本校は高学年で「鼓隊」の取組が入ってくるので、年間の行事予定では分からない、毎週の予定を確認しながら、時には単元を入れ替えたり、他学年との関わりを考慮したりします。

このようなことを常に考慮しながら年間指導計画を作成し、その計画を基に、学級担任と週案の打合わせをすると、より効果的な指導につながります。

教材選定は学級担任と一緒に使用時期を見通して

教材について

年度当初、教材の選定がありますので、年間指導計画を基に学級担任と一緒に教材を選定します。今年度、本校が採択した教材は以下のとおりです。

・3年「風やゴムのはたらき」車台・車輪
・3年「電気の通り道」豆電球セット・乾電池
・4年「とじこめた空気と水」水鉄砲セット
・4年「電気のはたらき」光電池セット

この他にも、理科で使用する教材はたくさんあります。中でも消耗品は使用量と使用時期を想定し発注しますが、4月に使うもの（気体検知管、気体のボンベ等）は、なるべく早く発注するようにします。また、植物の苗や種、メダカなどの生き物などは発注してから届くまでに時間がかかる場合があるので、あらかじめ業者に納期を確認するようにします。

成果（☆）と課題（★）

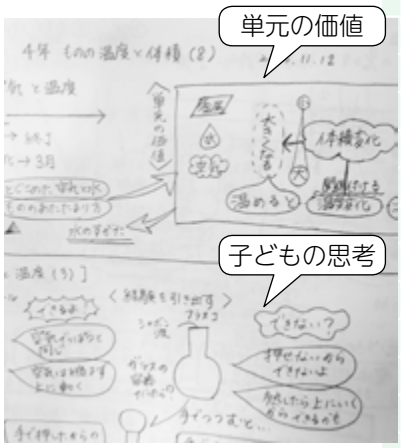
☆年間指導計画をあらかじめ提案することで、学級担任が見通しをもつことができた。計画的に指導をすることで、子どもたちが理科好きになっていく。
★教材の発注が直前にならないよう、発注時期や数量を記録化しておくことが重要。

校内へ広げる理科専科
～学級担任との連携～
円山小学校

事象や仲間と進んで関わる姿を目指して

※本校では、小学校における専科指導の加配校となり、本校の教員が、理科の専科指導を行っています。

専科担当・学級担任が、指導の見通しをもてるように



【指導計画のポイント例】

指導の質を高めるために

【学年研修で予備実験】

本校は、理科専科による指導を始めて３年目です。10月に児童に実施した意識調査では、「観察や実験に進んで取り組んでいる」という項目への評価は、４点満点中、平均で3.8点、「友達と話し合いながら予想を立てたり、結果をまとめたりしている」という項目への評価は3.7点でした。これは、年々上昇しています。

ここでは、授業の計画や準備、授業、評価などの一連の流れや、その効果について紹介します。

授業までに

①週案の作成

理科の年間指導計画に基づき、行事や学年の動き、理科室や器具の使用状況などを考慮して、２週間前までに週案を作成し、提案します。学級担任が指導しやすい日程になるよう配慮します。

週案には、各学年の進度や、学年研修の予定などの情報も載せることで、学級担任のみで行う指導の際にも役に立つものとなるようにしています。

②教材研究

子どもの発達の段階や実態から、子どもの分かり方に沿った教材を検討し、単元の指導計画を立てます。学級担任に紹介する前に、何をどう使うと子どもが単元の価値に迫れるか教材研究をします。

指導計画の中には、子どもの思考の流れや教師の具体的な関わり、器具の準備や扱い方、評価規準などを示すと使いやすいです。

③学年研修への参加

大きく三つの目的があります。学級の児童に対する共通理解、指導内容や方法の検討を通した研修、教材の準備です。

まず、配慮の必要な児童の様子や、学級集団としての学び方の傾向などを理解することで、子どもの実態に合った指導を目指します。これは、学級担任同士の情報交流にもなるため、日常の学校生活での指導に生かすことができます。

次に、提案した指導計画を学年研修で練り合うことで、単元の価値やそれに向かう子どもの論理についてより深く考え、授業に臨むことができます。評価規準についても検討します。

最後に、学級担任とともに、予備実験や教材の準備をすることで、単元の指導の見通しをもち、指導に役立つことはもちろん、学級担任と専科担当、双方の負担軽減にもなります。

このような打合せは、単元に入る前の週に行います。できるだけ短時間で行えるように資料等の準備をしておきます。

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
３～６年（17学級）	理科（全単元）	通年（４月～３月）	学級担任と専科担当
１～２年（10学級）	生活科（生命に係る単元）	単元の実施時期	

個の「学ぶ力」を育てる関わりを

授業では

本校では、単元の特性や学級担任の要望を考慮して、いくつかの指導体制を使い分けて実施しています。

①単元の中で

本校は学級数が多いため、専科担当がすべての授業に入ることはできません。一部しか入れない単元は、導入の際にT1として指導に当たり、子どもが学習に対する目標をもてるようにしています。

また、１、２年生の生活科では、アサガオやミニトマトなどの生長の変化が大きい時期に、観察の補助としてT2で入ることもあります。

【教材準備も協力して】

②１時間の中で

学級担任と専科担当で、T1とT2の役割分担を明確にします。

例えば、専科担当がT1を行うときは、主発問は専科担当が行い、全体交流では学級担任が指名を行います。専科担当が指名することもできますが、子どもを深く理解している学級担任だからこそできる切返しも効果的です。専科担当が授業を進めている間に、学級担任は支援の必要な子どもに関わり、個別に支援しています。

学級担任がT1を行うときは、専科担当は観察や実験の直前準備や説明の補助を行ったり、補助的に発問したりします。

どちらの場合も、観察や実験中に２名の指導者が子どもに関わることで、安全面への配慮を充実させ、一人一人の「学ぶ力」を伸ばすためにきめ細かな指導をすることができます。

【個への関わりを厚く】

③専科担当のみで

学級担任が、他の学級で家庭科や体育、外国語活動などのTTに入る場合もあります。このときは、専科担当のみで指導し、後で学級担任に授業の進み方や子どもの様子を伝えます。

学校全体で子どもの「学ぶ力」を育てたい

先述の意識調査の結果からも分かるように、３年間継続してきた取組を通して、子どもたちは自分の学びに対する自信を強めています。例えば、「自分の考えをノートに表すこと」「学んだことを生活に生かすこと」についても自己評価は高まっています。大規模校として、時数や理科室での学習の確保などが難しいという課題もありますが、打合せをしっかりと行い改善しています。

今後も、教材研究や授業を通して、学級担任と専科担当が共に授業力を高め、児童理解を深めながら、学校全体で子どもたちに確かな「学ぶ力」を付けていきたいと考えます。

成果（☆）と課題（★）

☆様々な授業形態を検討し、実施できた。

☆研究部や理科部と連携しながら、本校の教育課程研究に直結する取組にできた。

★大規模校として時数や場所の確保が難しいが、学校の実態に応じた取組の可能性を模索できた。

再任用教員の専門性を生かした専科指導
～学級担任との連携を密にした情報共有～
幌西小学校

担任との連携
計画・連絡・調整

1　年間計画と週の時間割

本校では、再任用教諭が家庭科の専科担当として指導しています。勤務時間が午前中なので、学級担任との綿密な打合せが大切です。

(1)年度初め

①専科担当が年間指導計画を立案し、学級担任と相談しました。

②学校行事や学年の取組を考慮しながら柔軟に対応するため、時間割を固定せず、数週間分ずつ調整しながら決めました。

(2)日常の連絡・調整

・文書やメモで頻繁に連絡・調整し、必要に応じて短時間の打合せを休み時間に行い、共通理解を図りました。

(例)家庭科時間割　　第　23　週

	9月28日（月）	9月29日（火）	9月30日（水）	10月1日（木）	10月2日（金）
行事	6年生芸術表現体験			全校朝会	
1	5の1 わくわくミシン5/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の5 わくわくミシン5/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の5 わくわくミシン 6/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	全校朝会	6の5 くふうしよう楽しい食事3/12 PC室
2	5の2 わくわくミシン5/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の1 わくわくミシン 6/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の4 わくわくミシン 6/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の1 わくわくミシン 7/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の2 わくわくミシン 7/11 エプロン裁縫セット 家庭科室
3	5の3 わくわくミシン5/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の2 わくわくミシン 6/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	6の1 くふうしよう楽しい食事3/12 PC室	6の3 くふうしよう楽しい食事3/12 PC室	5の3 わくわくミシン 7/11 エプロン裁縫セット 家庭科室
4	5の4 わくわくミシン5/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	5の3 わくわくミシン 6/11 エプロン裁縫セット 家庭科室	6の2 くふうしよう楽しい食事3/12 PC室	6の4 くふうしよう楽しい食事3/12 PC室	5の4 わくわくミシン 7/11 エプロン裁縫セット 家庭科室

（例）５月初旬のメモ連絡
児童の名前と顔が一致しないので評価が難しい。
以下のようにしてくださると助かります。
①家庭科室の座席表を用意してください。
②エプロンの上から名札を付けさせてください。
③実習当日、児童の活動の様子の見取りをお手伝いください。
（例）８月初旬のメモ連絡
①６年生のナップザックは、８／１０で大半の子が完成予定。
②遅れている児童は、来週、中・昼休みに一緒に作業します。
（例）１２月初旬のメモ連絡
２学期の家庭科は、３４週で終了しますが、この週にテスト時間を１時間入れてください。（最後の家庭科終了後）

担任との連携
評価の工夫

2　学習過程における評価情報と評価

(1)評価規準を前期（年度初め）・後期（10月）に作成しました。

①観点別に、専科担当と学級担任で話し合って作成しました。

○家庭生活への関心・意欲・態度　○生活を創意工夫する能力

○生活の技能　○家庭生活についての知識・理解

（例）５年生前期評価規準　○生活の技能の場合

生活の自立の基礎として日常生活に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な技能を身に付けている。衣食住や家族の生活に必要な技能を身に付けている。

・「18　玉結び・玉止めをしよう」シート裏の糸通し、玉結び回数

・下記の８項目を５点満点数値評価とし計40点満点の32点以上をA、ティッシュ評価合計９以上もAとする。

８項目①糸通し、②玉結び、③玉止め、④縫取り、⑤ボタン、⑥並縫い、⑦返し縫い、⑧かがり縫い…足、糸の加減、直線、等間隔、針の向き、糸の引き締め方等で評価

・テスト　　40点満点

②評価で使用する資料は見やすく、使いやすいものを心がけ、学級担任と情報共有しやすいものにしました。

	(例)技能評価 年　組　名簿	糸通し	玉結び	玉止め	縫取り	ボタン	並縫い	返し縫	かがり	ティッシュ飾り	ティッシュ仕上	E~L計/40	T1-2,4/40	評価
1	児童氏名	16	2	5	5	4	5	4	5	5	5	38	40	A

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
５・６年（各５学級）	家庭科	通年（４月～３月）	担任外（再任用）

⑵評価

①評価は専科担当が行います。

・作品の評価は具体的なチェックポイントを専科担当が学級担任に伝えて、共に確認しました。

（例）エプロンの作品を児童に返却する前に、学級担任も児童作品と専科担当の評価を確認しました。

（例）専科担当から担任へのチェックポイントメモ【次の観点で評価しました】
①直線縫いができている。（若干の曲りは許容する）
②返し縫いを忘れずに行っている。同じ場所で返している。
③折り端から２～５㎜の場所を縫っている。（１㎝程度まで許容する）
④端まで縫っている。

②調理実習では、専科担当と学級担任が指導し、共に評価を行うことで、きめ細かい指導と評価を行うことができました。学級担任が記録した資料は、専科担当に渡し、評価を整理しました。

③特筆すべき事項については、家庭科での取組の様子を学級担任が通知表の総合所見に活用できました。

専科指導の効果の検証

3　子どもの意識の変容（子どものアンケート7月・12月実施）

アンケートの答え方
①そう思う
②どちらかと言えばそう思う
③どちらかと思えばそう思わない
④そう思わない

	質問事項	５年生		６年生	
		①そう思う	②どちらかといえばそう思う	①そう思う	②どちらかといえばそう思う
（1）	家庭科の授業は好きですか	89．4%→85．1%		79．1%→83．1%	
（2）	家庭科の授業がどの程度わかりますか	よくわかる	だいたいわかる	よくわかる	だいたいわかる
		78．6%→87．1%		74．0%→76．5%	
（3）	家庭科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つと思いますか	88．8%→94．9%		89．8%→90．9%	
（4）	家庭科の授業で学んだことを生活に役立てようとしていますか。	85．0%→90．4%		84．7%→82．4%	
（5）	家庭科の授業で、観察や実習の結果をまとめたり発表したりして、よく考えるようになりましたか	68．8%→82．6% 7月　→　12月		55．7%→66．9% 7月　→　12月	

質問事項⑴⑶⑷から、子どもたちにとって家庭科は、好きな教科、役に立つ教科、そして、学んだことを生活の中で役立てている教科だと思っていることが分かりました。

質問事項⑷⑸の「学んだことを生活に役立てようとしている」「よく考えるようなった」と答えた児童の割合が増えたことから、専科指導による体験的な活動や問題解決的な学習を通じて、子どもは専科指導で実感を伴った理解を積み重ねることができたことが分かりました。

成果（☆）と課題（★）

☆専門的なきめ細かい指導と評価をすることができた。
☆複数の目で子どもの学習状況を見取ることで、多面的な指導・支援ができた。
☆子どもたちが考えることの楽しさや大切さを学ぶことができた。
★今後の教員の異動の状況によっては、家庭科専科の継続的な指導に課題がある。
★専科担当が再任用教員であるため、教材研究や評価の時間の確保に課題がある。

生徒指導に生きる専科指導
～高学年における効果的な取組～
新陵小学校

実施の概要

学校規模及び導入方式

本校は、各学年２クラスと特別支援学級２クラスの計14クラスです。専科指導については、５・６年生の外国語活動において専科担当が実施しています。

今年度は、専科担当が主にT1として授業を担当して行いました。ALTが授業を行うときは、専科担当とALTがTTで、学習を進めていきました。

高学年担任の負担軽減

この時間、必要に応じて、各学級担任がT2として入り、学習を進めることもありましたが、学級担任は他の教科等の教材準備やお便り等の作成など、学級事務や、校務分掌を務める時間としても活用しています。

年間を通じた指導計画、評価

今年度は、実施する曜日を固定せずに実施しました。そこで、毎週、各学年と打合せの中で翌週の予定を確認しながら、計画を立てていきました。外国語活動は、基本的には週１回の実施でしたが、行事など、学年で力を入れたい取組がある週には外国語活動の授業時間を設定せず、それ以降の週に２回実施するなど、実情に応じて柔軟に対応しました。

評価については、専科担当が行いました。外国語活動は、学習の際に、どのような姿を見ることができたかを中心として評価するため、授業中における子どもの学びの様子を常に把握しておかなければなりません。そこで、一人一人の学びの様子を詳しく見取るために、学習後すぐに、授業の様子を記録し、即時評価するように努めました。さらに、授業後に一人一人に振り返りを書かせ、その学習記録も評価に役立てました。

評価の妥当性と信頼性の確保

外国語活動の評価を担当教諭が行うことで、学年全体を同じ基準で見取ることが徹底できるため、学習評価の妥当性や信頼性を高めることができました。

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
５・６年（各２学級）	外国語活動	通年（４月～３月）	担任外（教務主任）

複数の教員で関わり、子ども理解を深める

一人一人のよさを見取る

外国語活動を担任外が専科指導で行うことによって、学級担任以外の教員が子どもと触れ合う機会が増えました。

そのため、学習時間だけではなく、廊下ですれ違ったときに挨拶を交わしたり、時には休み時間に一緒に遊んだりすることで、子どもとの関係が近くなり、外国語活動以外の面からも一人一人を知ることができました。

そのことが、一人一人のよさを見取ることにつながり、子ども理解を深めることができました。

生徒指導に生かす

チームで解決に向かう

専科担当と高学年の学級担任の間で、子どもの様子を語り合う機会が増えました。情報交換することで、子どもの様子を多面的に捉えることができ、一人一人のよさや課題を共有することができました。専科担当が外国語活動を指導することで、複数の目で子どもを見守ることができます。

その結果、学級経営や生徒指導における問題点を早期に発見し、協同してその解決に向かうことができました。

成果（☆）と課題（★）

☆担当する外国語活動に専念することで、教材研究を深めることができた。また、45分の授業時間を効率的に進めるため、授業改善を図ることができた。

☆教科等を専門とする教員が評価することにより、評価の妥当性・信頼性が一層高まった。

☆学級担任が学級事務や教材研究、校務分掌等を行う時間を確保することができた。

☆学級担任と専科担当との間で、子どものよさや課題を共有することができ、子ども理解を深めるとともに、学級経営や生徒指導上の課題解決に有効であった。

★学年としっかり連絡を取り合って時間割の調整を図る必要がある。また、他の業務に支障が出ないよう見通しをもつことも必要。

★専科担当にとっては、指導対象となる子どもが多いため、一人一人の名前を覚えることに時間がかかった。最初の時期は座席表や名札など用意したり、担任がT2として補助指導に入ったりするなど、連携して取り組むことが大切。

子どもの実態に応じた専科指導
～体育授業の充実を目指した取組～
上野幌東小学校

児童の体力向上と教員の指導力向上に向けて

昨年度の学校評価で、子どもたちの体力向上が話題になり、今年度から「縄跳びチャレンジ」の質的向上、「スポーツテスト」の全学年実施が決まりました。さらに、「体育授業の充実」のため、担任の専門性や実践的な指導力の向上など研修的な要素も取り入れながら体育専科を試行することにしました。

初めての試みなので、まず、始めに一番効果的な関わり方について検討しました。そこでたどり着いたのは、場の設定や系統性を意識して指導することができる跳び箱を中心に全学年で行うことです。具体的には下の図のように年間計画を立てました。

平成27年度　体育専科　年間計画

札幌市立上野幌東小学校

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
行事	始業式 入学式	運動会		教育実践発表会 終業式	始業式	滝野宿泊学習 通知表発行	修学旅行 地域公開デー 土曜参観		終業式	始業式		卒業式 修了式
	運動会				水泳学習			学習発表会			スキー学習	
1年			スポーツテスト	夏季休業						冬季休業	跳び箱(4)	
2年			スポーツテスト								跳び箱(4)	
3年			スポーツテスト			ポートボール(6)			跳び箱(6)			
4年			スポーツテスト			ポートボール(6)			跳び箱(6)			
5年			スポーツテスト				マット(5)		跳び箱(5)			
6年			スポーツテスト				マット(5)		跳び箱(5)			

運動量確保のために

跳び箱運動では、１・２年、３・４年、５・６年を２時間続きで行うことができるよう時間割を調整しました。用具の準備・片付けの時間が半分になり、その分、運動量を確保することができました。また、指導者が増えることで、個に応じた場を多く設定することができ、子どもたちの活動意欲も向上しました。

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
全学年 （各学年２学級）	体育	６～７月（スポーツテスト） ９月～10月 （ポートボール・マット運動） 11月～２月（跳び箱運動）	担任外と学級担任

運動の質の向上

今年度は、専科担当と学級担任で行いました。その結果、跳び箱運動に必要な腕支持感覚を身に付ける運動、指導のポイントや評価の観点を考慮した場の設定などを担任と共有できました。今後は、評価の在り方についても更に検討し、学級担任の専門性の向上に生かすことができればと考えています。

授業後の感想から

跳び箱運動の学習後、専科指導の効果を検証するため、３～６年生と学級担任にアンケート調査を実施しました。その結果、今回の学習で跳び箱運動に前より自信をもてるようになったことが分かりました。

【アンケート結果】（一部抜粋）
A…そう思う
B…どちらかといえばそう思う
C…どちらかといえばそう思わない
D…そう思わない

①跳び箱運動が得意だと思いますか？
A 32%　B 31%　C 18%　D 19%

②前よりもできるようになりましたか？
A 75%　B 18%　C 4%　D 2%

③跳び箱運動に自信がつきましたか？
A 60%　B 27%　C 10%　D 3%

【子どもの声】
○台上前転で腰を高く上げるこつが分かってできるようになりました。授業がすごく分かりやすかったです。
○先生の人数も多いので、いっぱいアドバイスをもらったし、説明もカードにまとめて分かりやすくていいと思いました。
○跳び箱を跳ぶ前に、平均台やステージを使ったトレーニングで、より跳び箱が跳びやすくなったから今回の跳び箱はよかった。
⇒今回の体育専科指導を通して、子どもたちは意欲の高まり、こつを意識すること、技能の向上を実感することができた。

【学級担任の声】
○場の設定や安全の面から考えても専科の先生がいてくれるのはとてもありがたい。
○用具の準備や片付けを計画的に行えたので、子ども一人一人の学びの時間を確保することができた。
○跳び箱運動に必要な感覚が身に付けられる場がたくさんあったことが勉強になった。
○担任も合わせて複数で指導することができ、苦手な子どもに対して手厚く支援することができた。

成果（☆）と課題（★）

☆子ども一人一人に対して、専門性を生かした指導をする機会が増え、運動能力の向上とともに子どもが体を動かす楽しさを実感できるなど、体育の授業に意欲的に取り組むことができた。
☆普段の体育の時間より指導者が１名多く、より安全を確保することができるため、場を多く設定することが可能になり、子どもが安心して跳び箱をすることができた。
☆学級担任と評価の見取り方を共有することで、次時の指導について協議することができ、指導改善に役立った。
☆学級担任が子どもを見取るための時間的・精神的余裕ができた。
★算数の少人数指導など、学年の動きを考慮して計画を立てる必要がある。体育館の割当を優先するため、体育の時間を確定させてから算数の時間を入れている。
★体育という教科の特性上、急な時間の変更が難しい。
★担任外教諭が専科指導を行う場合には、業務の割り振りをどのようにするか、年度初めに検討しておく必要がある。実際には、教務主任の場合、４月段階で教科書関係は教務部で分担したが、月末統計、転入・転出関係も分担することができる。

各学年に合わせた専科指導
～複数パターンを組み入れた取組～
新光小学校

本校の専科指導について

指導体制について

本校では担任外３名が専科指導を実施しています。教科の特性と子どもの実態から教科と実施学年を設定しました。本年度は音楽（全学年・全学級）、図画工作（６年生）、算数（２・３年生）での専科指導を実施しました。

本校は、単元・題材ごとに専科指導を行い、学級担任による授業と専科担当による授業を組み合わせています。子どもの個性を把握した学級担任による授業と、より専門性の高い知識をもった専科担当による授業の両方を行うことで、子どものよさを多面的に評価し、伸ばすことができると考えました。

専科指導の時間、学級担任は子ども理解を深めるため、TTとしての指導や、教室内で子どもの様子を見ながら支援をしています。

専科としての音楽・図画工作・算数の導入の経緯など

音楽について専門的に指導法を学んだ教員による指導で、児童の力をより伸ばしたいという学級担任の要望が多くあり、専科指導を導入しました。全校朝会も専科担当が歌唱指導を行いましたが、教室で一人一人と顔を向き合わせての指導において、より効果的でした。音楽の指導法を学級担任が学ぶ機会にもなりました。特に、鑑賞の評価は学ぶことが多いという感想でした。

図画工作の授業は使う道具が多く、その一つ一つの使い方の指導については学年に任されていて、学年・学級によって指導内容に差が生じることもあります。また、図画工作に苦手意識をもっている子どもは、作品の制作において学級担任の補助を必要としており、高学年はその差が大きく開いていました。今年度は図画工作の専科指導を取り入れることで、同じ学年で一貫した観点での指導を行ったり、学級担任は子どもの補助や作品制作状況をより細かく観察しながら支援したりすることで意欲や技術等の向上をねらいました。

算数は、本校の研究教科であり、算数の学力向上においてTTや習熟度別少人数指導、日々のノート指導など、様々な指導方法を工夫しています。本校では低学年に比べ、高学年で算数嫌いの子どもの割合が高くなっています。その要因について、２年生のかけ算を３年生でも理解できていない子どもは、４年生以降の学習にもついていけなくなっているのではないかと考え、２・３年生での指導の強化の必要性から、算数の専科指導を行いました。既存のTT、習熟度別少人数指導に加えて専科担当による授業を行うことで、より手厚い指導を行うことができました。

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
全学年・全学級	音楽	通年	担任外
６年学級（４学級）	図画工作	各学期１～２単元	担任外
２・３年（各３学級）	算数	２学期以降	担任外

今年度の実践例の一部 ～各教科ごとに～

音楽　【歌唱・器楽・鑑賞】

学級担任からの強い要望や、学校全体の合唱レベルを高める目的もあり、５月から専科指導を開始しました。最初は学年音楽から始め、６月からは学級での指導も開始しました。歌唱指導の他、３年生では音楽鑑賞の指導や初めてのリコーダーの指導も行いました。

専科担当が指導を行っている際、学級担任は子どもの歌っている様子や声の出し方を近くで見ることができ、より個別に支援できました。また、評価は専科担当が行い、打合せの中でお互いの情報を共有することで、子どものよさや課題がより明確になりました。

音楽は最も専科指導の時間が多く、全学年に渡っているため、専科担当・学級担任ともに子ども理解が深まりました。また、個に応じた指導をすることにより、学校全体の歌唱力がさらに高まりました。

※地域の方にも筆づかいが評判となった、廊下に掲示された作品

図画工作　【絵画】

６年生の単元「墨から感じる形や色」の授業を専科指導で行いました。学年との打合せで、竹をテーマに決めました。実際に専科担当は、事前に制作を行い、子どもが苦労しそうな点を想定します。学級担任と専科担当でそれぞれ指導分担を確認して授業を行いました。学級担任はTTとして教室で子どもの補助などを担当しました。

指導者が異なる場合でも学級間で差が生じないように、同じ観点での指導を常に心がけていますが、専科指導では、より共通の観点での指導が行うことができます。専科担当任せにせず、学習指導要領を十分に確認しておくことも大切です。

算数

３年「重さ」では、はかりを使って100gに近いと思われる物を身の回りから探し、本当に100gかどうかを確かめました。専科担当が授業を進めることで、学級担任は子どもの思考過程を詳しく見取ることができました。また、１kgに近いものを見付ける活動では、子ども理解の深い学級担任がTTとして参加することで、100gを見付けた見取りを活かし、効率よく進めることができました。

成果（☆）と課題（★）

☆個別指導が必要な子どもに対し細かく丁寧に指導することができた。

☆指導と評価を学級担任と専科担当のそれぞれが行い、見合うことで、子どもの良い面をより見付けやすくなった。

★手厚い指導をするために配慮が必要な子どもの実態把握が必須なので、学級担任との打合せを綿密に行う時間設定が大切。

★固定の時間枠が設定できないと、不定期になってしまうため、基本の時間割が必須。

学校が変わる！専科指導
～担任外が年間を通じて教科指導を実施～
藻岩小学校

子どもの成長を多くの教員で支える活動

専科指導を導入した経緯について

藻岩小学校では平成24年度から
①多くの目で子どもたちを見取り、子どもの成長に関わろう
②外国語活動の導入に伴い、高学年の学級担任の負担軽減に取り組もう
ということを目指して､外国語活動における専科指導を始めました。
それが成果として現れてきたことから、平成27年度に次のように発展させる形で実施しました。

・５・６年生の外国語活動については26年度と同様に専科指導を導入し、実施する。
・TT担当や担任外の状況に応じて、３～６年生でも専科指導を実施する。
・専科指導の教科は、週２時間程度のものを学年と担任外で相談して決定する。
・専科指導時の学級担任は、学級事務を行うなど、有効に時間を使い、負担軽減を図ると共に、子どもに関わる時間を増やす。

担任外の持ち時数について

週の専科指導の時数について

＜担任外教諭（保健主事、ＴＴ担当）＞
ＴＴ　週　12時間
外国語活動　週　２時間（１時間×２学級）
専科３～４年　週　８時間（２時間×２学年×２学級）
週22時間（内：専科指導10時間）

＜担任外教諭（教務主任）＞
ＴＴ　週　８時間
外国語活動　週　２時間（１時間×２学級）
専科５～６年　週　８時間（２時間×２学年×２学級）
週18時間（内：専科指導10時間）

〈１学級当たりの週時数〉

		１年	２年	３年	４年	５年	６年
週授業時数		25時間	26時間	27時間	28時間	28時間	28時間
担任授業時数		25時間	26時間	25時間	26時間	25時間	25時間
担任外授業時数	外国語活動					１時間	１時間
	教科			２時間	２時間	２時間	２時間

実施学年と学級数	実施教科	実施時期	指導者
３年（２学級）	社会	通年	担任外（保健主事）
４年（２学級）	総合的な学習の時間	通年	
５年（２学級）	外国語活動	通年	
	家庭	通年	担任外（教務主任）
６年（２学級）	家庭	通年	
	外国語活動	通年	

校務分掌の再編・業務の整理

導入にあたって整理したこと

専科指導を導入するに当たっては、学級担任の負担が減り、担任外の負担が増えることが懸念されます。そのため、担任外が現在行っている業務の見直しを図らなければなりません。しかし、担任外と学級担任の業務分担を見直すだけではなく、校務や学校行事等の見直しを図ることが重要であると考え、以下の取組を行いました。

○校務分掌の見直し

前年度の６部、12特別委員会（プロジェクト含む）を５部、７特別委員会に再編成をしました。仕事内容を整理して、仕事の分担を見直しました。

○文書の保存を徹底し、データを共有

校務分掌を再分担することに伴って、26年度末に各種提案物やお便りなどの保存の徹底を図りました。これにより、新しい分掌でも、誰もが昨年度までの資料を利用できるようになりました。

○行事内容の精選

ねらいや育ちから、運動会や学習発表会など、内容の見直しを行いました。具体的には競技数を減らしたり、発表時間を少なくしたりすることで準備時間、指導時間の短縮を図りました。

○校外学習の精選

バス代金の高騰と引率教諭の確保の難しさから、校外学習の精選を進めました。活動内容がねらいと合っているか。本当に行く必要があるか。ねらいから活動内容、目的地等を見直し、場合によっては、その校外学習自体を取り止めるという精選を行いました。

○職員会議の効率化、時間の短縮

提案の仕方、会議の進め方、などを見直し、職員会議にかかる時間の短縮を図り、負担の軽減を図りました。

これらの見直しや再整備は年度末に提案し、その他の取組（その中に専科指導）と同時に新年度から始めました。

１週間の流れをルーティン化する

実際に授業が始まると、校外学習の引率、TT、補欠授業、外勤など、担任外が決められた時間に専科指導に行けないということがあります。専科指導を始めるに当たり大切なことは、TTの時と同じように１週間の予定を整理し、１週間の中で確実に実施できるようにすることです。本校では以下の流れで１週間の流れをルーティン化しています。

火曜日	Step 1	来週分の引率計画提出
水曜日	Step 2	外勤の集約と、引率・補欠枠の決定 ①各学年との調整 ②専科指導・ＴＴ時間割決定
木曜日	Step 3	学年研修・週案作成
金曜日	Step 4	週時間割の配付

決められた専科指導、TTの時間割をできるだけ変更せずに行うことが重要です。そのため、体調を崩しての年休や外勤等に伴う補欠や水泳学習の補助については、できるだけ担任外の教員以外で、補欠や補助を行い、専科指導やTTの時間が実施できないことを避ける必要があります。管理職も含めての協力が必要です。

専科指導を導入したとき、想定していた学級担任の専科指導を行っている時間の活用方法は、「学級事務」に充てるということでした。しかし、実際に始まってみると「学級事務」の他に

・若い先生が他の先生方の授業を見せてもらう自主的な研修
・急きょ発生した補欠授業への対応
・体育、理科、算数など時数にカウントされないTTや補助

など、各自の工夫で、大変有効に活用しています。また、手の空いている教員に様々な協力をお願いすることなども、できるようになっています。

成果（☆）と課題（★）

☆専科指導をすることによって、より質の高い学習を行うことで、授業が楽しい、よく分かるという子どもが増えた。
☆教職員が子どもの状況を共有することができるようになった。そのことにより、子どもへの繰り返しの指導が充実するようになり、学校、学年、学級の安定につながった。
☆子どもたちの安定により、「学ぶ力」や体力への取組が効果的になり、その向上が著しくなった。
☆子どもたちの安定と成長が学校評価への高評価や地域・保護者の理解・協力につながった。
★時間割の調整が複雑になる。
★急な病休や外勤など、補欠が発生した場合、他の教職員の協力が不可欠になる。
★学級が安定していないなど、担任外が補助に入り続けなければならないような状態が生じた場合、専科指導を実施するために他の方法を検討していかなければならない。

作成委員

あいの里西小学校	教諭	神林　裕子
八軒西小学校	教諭	菅野　牧子
中央小学校	教諭	近藤　大雅
円山小学校	教諭	杉野さち子
幌西小学校	主幹教諭	今野　芳光
新陵小学校	教諭	荒木　貞行
上野幌東小学校	教諭	楡井　雄一
新光小学校	教諭	濱口　陽一
藻岩小学校	教頭	関根　治彦

〈第４章 実践例の掲載順〉

事務局

札幌市教育委員会学校教育部教育課程担当課

指導主事	佐藤　圭一
	末原　久史
	小林　明弘
	関根　昌彦

札幌市教育委員会
小学校専科指導の手引 1

平成28年３月発行

編集　札幌市教育委員会教育課程担当課

発行　札幌市教育委員会
札幌市中央区北２条西２丁目

印刷　富士プリント株式会社
札幌市中央区南16条西９丁目２-10

小学校専科指導の手引 1

平成28年3月